

学校法人京都学園
(京都学園大学)
理事長
田辺親男



経験を通してしか人は成長しない。
経験と挑戦の場を作り、
そっと背中を押す大学でありたい

長

く京都経済同友会の代表幹事を務めていた経験から感じたことがあります。それは、多くの経営者は若者に、専門的な知識やスキル以上に、チャレンジする姿勢やへこたれない気概を求めていること。そして、その前提となるコミュニケーション能力や、日本人・社会人としての基本的な態度や教養を身につけてほしいと考えていることです。

本学は社会を支える中堅的な人材を育成してきた大学です。経済学部であれば、実社会において経済のメカニズムを体得し、経済人としての道を切り開くに足る能力を養成すること。それが私の考える実学であり現場力です。そうした思いから理事長

就任以来、さまざまな改革に着手してきましたが、ここでは目指すべき3本の柱を強調しておきます。

1つめは面倒見のいい大学であり続けること。本年度から新たに、教学部門の教員が担任に、事務部門の職員が副担任となる制度を設けました。学生の情報を教職員が共有し、入学前から卒業後まで一人ひとりと心の通い合う関係を作っていきます。

2つめは医療系学部の新設です。2020年に医療サービス業の就労人口が900万人を超すと言われるなか、看護師や言語聴覚士のほか、ヘルスケアとスポーツを結びつけられる人材を育てます。高齢化が進む国は何も日本だけではありません。この分

野においてアジア諸国のモデルとなり、リーダーシップをとれる人材の育成を目指します。

3つめは全員に海外経験をさせることです。従来の大学に加え新たにマサチューセッツ大学やハーバード大学と提携し、留学の道を開きました。昨年度からは語学研修後に海外企業で学ぶグローバル・インターンシップ・プログラム(GIP)も開始しています。海外に出ることで「世界には多様な人々がいること。けれど自分と同じ人間であること」を知るはず。その体験が自信を育むでしょう。

経験を通してしか人は成長しませんが、周囲にリード役が存在することで、その機会は大きく増します。面倒見のいい大学でありたいと考えるのはそのため。学生とべったりするのではなく、強引に引っ張るのでもない。経験や挑戦の場を作り、少しでも意欲を見せたときにそっと背中を押す。それが私たちの役目です。

15年には京都太秦キャンパスが誕生し、京都亀岡キャンパスとあわせて4学部10学科体制になる予定です。こうした改革の積み重ねが、5年後、10年後に花を咲かせるための礎になると確信しています。

【理事長プロフィール】たなべ・ちかお●1947年生まれ。京都府立医科大学卒業、医学博士。京都・大阪で医療機関を経営する親友会グループ会長。京都経済同友会代表幹事(2009年4月～13年3月)などを歴任し、12年より現職。13年からハーバード大学アジアセンターのフェロも務めている。

【大学プロフィール】1969年開学。2015年に京都太秦キャンパスが誕生し、経済経営学部、健康医療学部(設置認可申請中)、人文学部、バイオ環境学部の4学部10学科になる予定。